

前回委員会における需給・価格見通しと実績の対比

1. 前回の委員会（平成23年7月8日）で示した夏秋キャベツの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月下旬時点）	備考
夏秋キャベツ （7～10月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、主産地である群馬、北海道が前年同、長野県が101%で、全体としては前年同となる見込み。 ・ 生育状況は、一部の県で低温等の影響を受けた時期があったものの現在は順調。 ・ 出荷量は、少なかった前年をかなり上回り、平年をやや上回る見込み。 ・ 出荷量が不作の前年を上回ること、震災の影響により加工業務用需要が弱含みであることから、価格は前年を下回る見込み。 	<p>（入荷量）</p> <p>7月は、上旬に天候不順の影響を受けた群馬産や定植が遅れた岩手産が大幅に入荷減となったが、その後生育が回復し前年よりやや入荷減となった。8月は、上旬に生育が回復した群馬産、岩手産の出荷が潤沢であったことから、不作であった前年よりかなり入荷増となった。9月は、降雨の影響から群馬産で一部病害虫が発生したことが影響し、前年よりわずかに入荷減となった。10月は、定植作業の遅れていた後続産地の千葉産の生育が回復し、不作であった前年をかなり上回った。</p> <p>期間全体としては、前年をやや上回り、ほぼ平年並みであった。 （7月～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：103）</p> <p>（価格）</p> <p>7月上旬は、群馬産、岩手産の入荷減により、価格は前年を大幅に上回ったが、その後の生育回復により、7月下旬以降8月中旬まで前年を大幅に下回って推移した。8月下旬以降も、9月中旬までは、価格は前年をかなり下回って推移したが、9月下旬には、高騰したレタスの代替需要もあり、前年を上回った。10月は、後続産地の千葉産の潤沢な出荷により前年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、価格が高めであった前年をかなり下回った。 （7月～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：88）</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

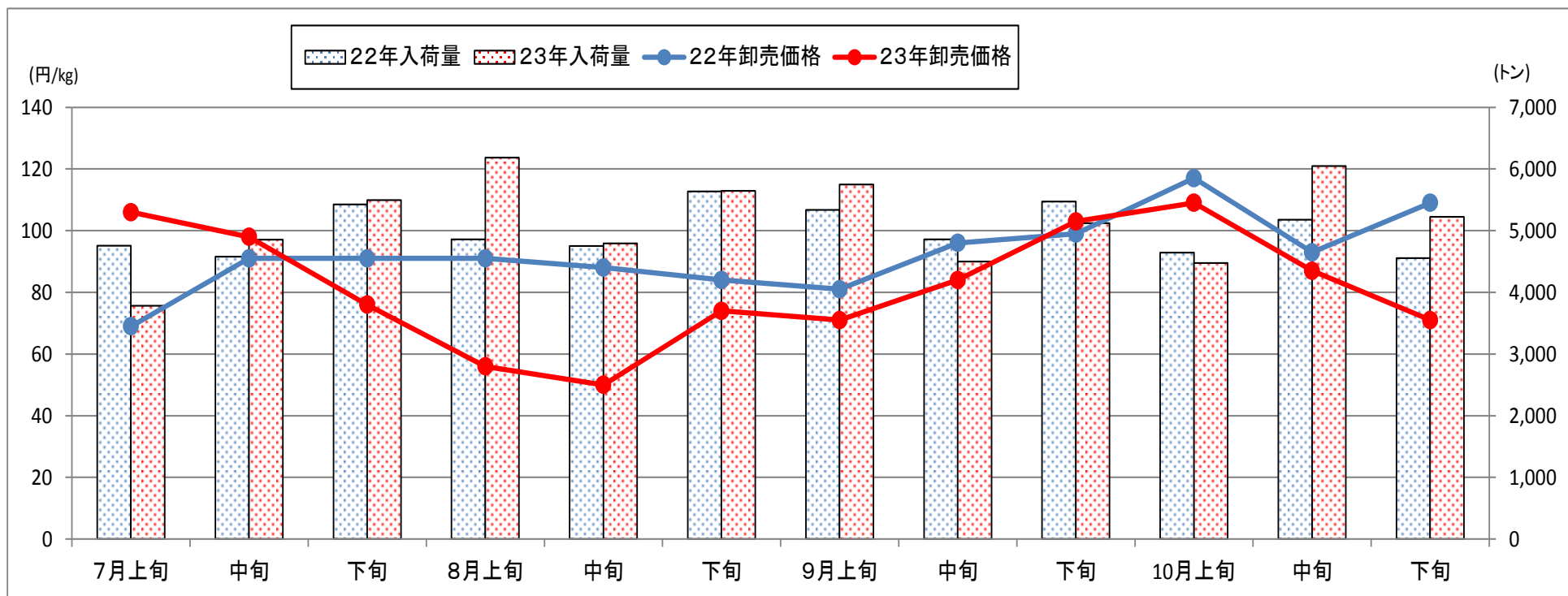
(参考1)

○23年産夏秋キャベツの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	80	106	101	127	101	100	108	93	94	96	117	115	103
	96			109			98			110			
価格	154	108	84	62	57	88	88	88	104	93	94	65	88
	110			68			92			83			

(参考2)

○ 23年産夏秋キャベツの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



2. 前回の委員会（平成23年7月8日）で示したたまねぎの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月下旬時点）	備考
たまねぎ （7～10月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、主産地である北海道が前年並み、兵庫が96%と減少するも佐賀が103%と増加し、全体としては、前年並みとなる見込み。 ・ 生育状況は、北海道は一部の産地で雹害があるものの全体では前年並みに回復の見込みで、佐賀は、厳冬期の生育不足があったが前年並み、兵庫は順調な生育で大玉傾向となる見込み。 ・ 出荷量は、不作だった前年をかなり上回り、平年をやや上回る見込み。 ・ 府県産の貯蔵物が潤沢で北海道産も順調であることから、出荷量が前年をかなり上回り、また、輸入品の価格が下がっている中で低コストを目指す実需者からの輸入品へのニーズも底堅く、価格は前年を下回る見込み。 	<p>（入荷量）</p> <p>7月は、香川産は好調な出荷であったものの、主産地の佐賀産、兵庫産が前年より入荷減となったことから、前年より入荷量がかなり減少した。8月は、兵庫産が順調な出荷であったものの、佐賀産が例年より早く出荷期間が終了し、北海道産が生育の遅れから出荷が遅れたため、ほぼ前年並みの入荷量であった。9月は、北海道産が長雨により収穫が遅れ、不作であった前年よりわずかな入荷増にとどまったものの、兵庫産の潤沢な入荷により、前年をかなり上回った。10月は、北海道産が不作であった前年を上回る出荷となっており、また、中国産や米国産が前年より大幅に入荷増となったことから、入荷量は前年をかなり上回った。</p> <p>期間全体としては、不作であった前年をやや上回り、平年をやや下回った。なお、国産は全体的に小玉傾向であった。</p> <p>（7月～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：103）</p> <p>（価格）</p> <p>入荷量が不作であった前年を下回る時期もあったが、価格は期間を通じて高値であった前年を大幅に下回って推移した。</p> <p>期間全体としても、高値であった前年を大幅に下回った。</p> <p>（7月～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：75）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

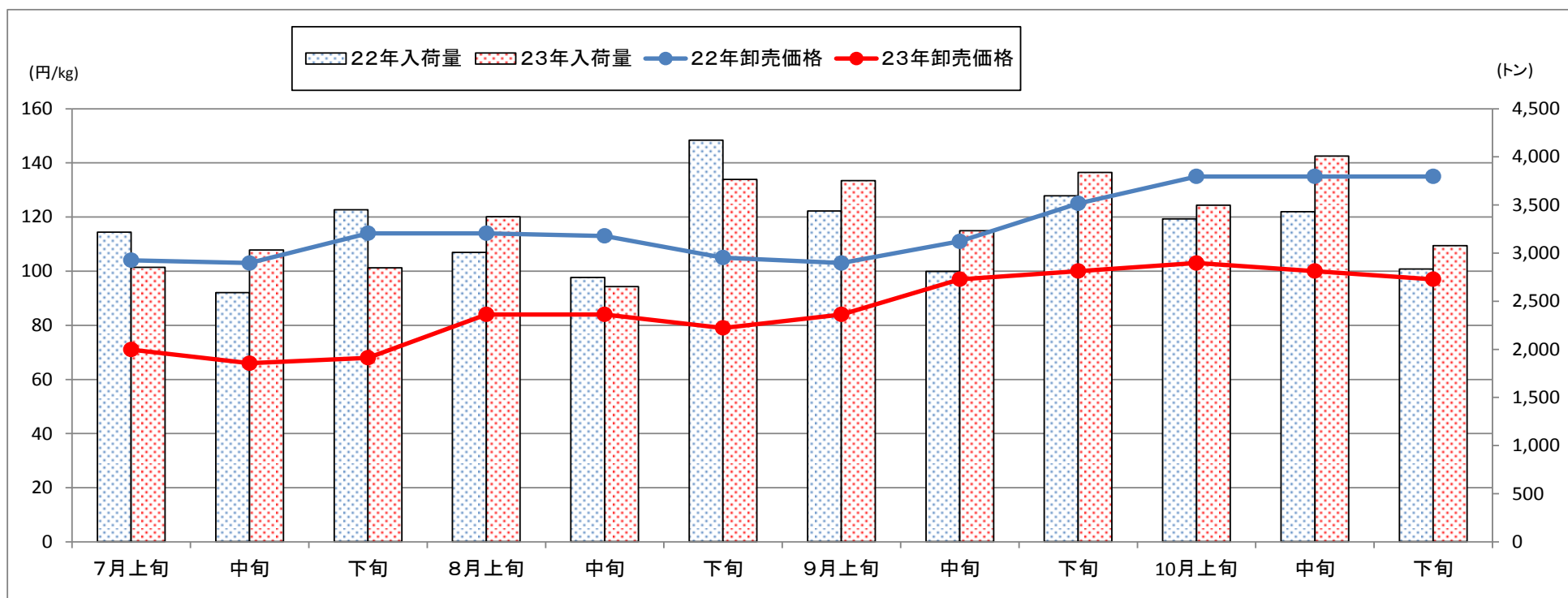
(参考1)

〇23年産たまねぎの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	89	117	83	112	97	90	109	115	107	104	117	109	103
	94			99			110			110			
価格	68	64	60	74	74	75	82	87	80	76	74	72	75
	63			75			83			74			

(参考2)

〇23年産たまねぎの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



3. 前回の委員会（平成23年7月8日）で示した夏だいこんの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（9月下旬時点）	備考
夏だいこん （7～9月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、主産地の北海道は前年並み、青森は103%で、全体としては前年並みとなる見込み。 ・ 生育状況は、北海道は、4～5月は天候不順だったものの、その後の好天により回復傾向、青森は生育順調。 ・ 出荷量は、不作だった前年をかなり上回り、平年よりも多い見込み。 ・ 1本売りがほとんど見られないなど、夏場の需要が少ない中であって、全体的に出荷量が増加し、特に8月～9月は出荷が集中することが見込まれ、価格は前年を下回って推移する見込み。 	<p>（入荷量）</p> <p>7月は、青森産が順調な出荷であったものの、北海道産の播種期の遅れのため前年よりかなり入荷減となったが、8月は、北海道産の生育が回復し潤沢な出荷となったことから前年よりかなり入荷増となった。9月は、上・中旬に前年を上回ったが、下旬に北海道産が台風の影響による不作から出荷量が大幅に減少し、青森産も播種期の遅れの影響のため出荷量が減少したことから前年よりわずかに入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、ほぼ前年並みで、平年をやや下回った。 （7月～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：101）</p> <p>（価格）</p> <p>7月は、前年よりかなり入荷減となったことにより、価格は前年をやや上回り、8月は前年よりかなり入荷増となったことから価格は前年を大幅に下回った。9月は、コンビニエンスストアのおでん需要もあり、価格が上昇する傾向にあるが、中旬までは前年を下回って推移したものの、下旬は入荷減から前年を大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり下回った。 （7月～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：92）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

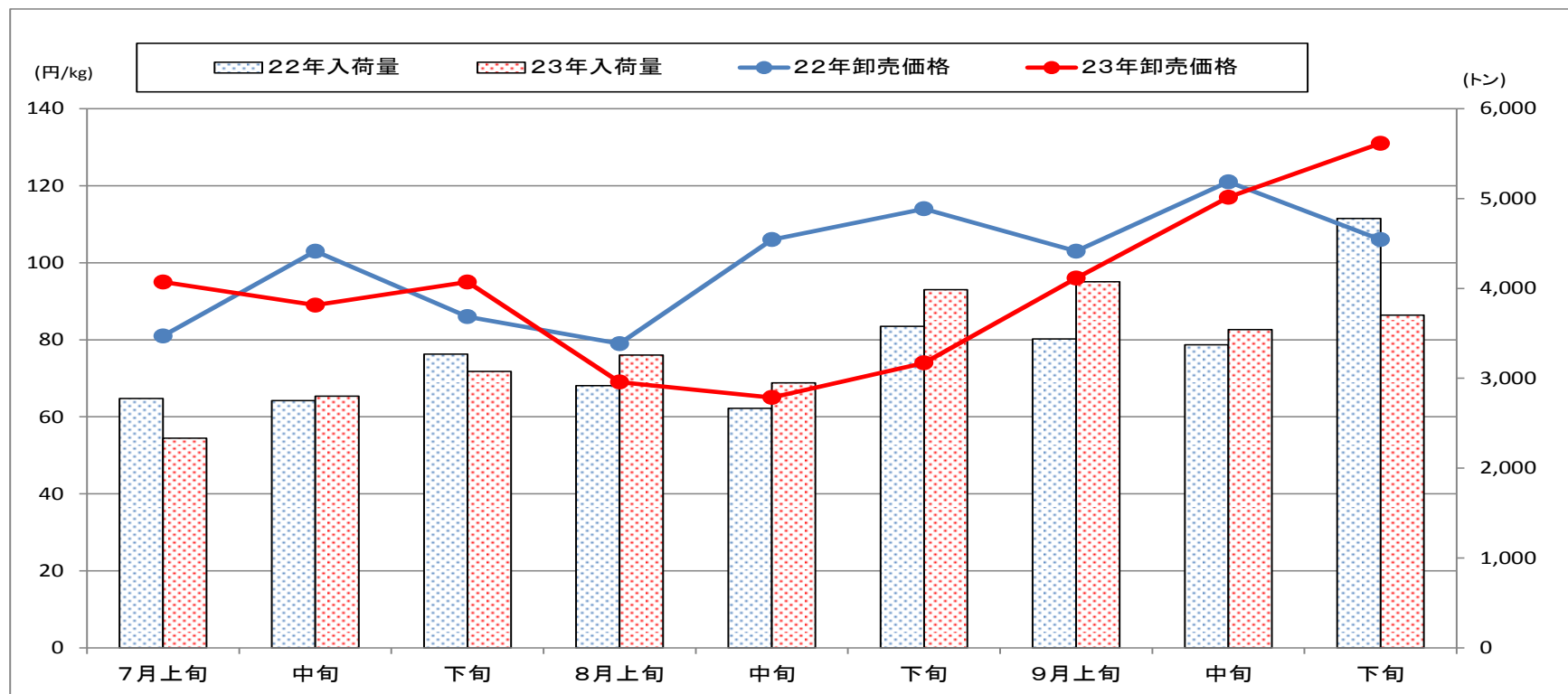
(参考1)

○23年産夏だいこんの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	84	102	94	112	111	111	119	105	78	101
	93			111			98			
価格	117	86	110	87	61	65	93	97	124	92
	103			70			105			

(参考2)

○23年産夏だいこんの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



4. 前回の委員会（平成23年7月8日）で示した秋にんじんの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月下旬時点）	備考
<p>秋にんじん （8～10月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、北海道は前年並みだが、青森は108%と増加するため、全体では前年より増加する見込み。 ・ 生育状況は、天候不順で播種や生育の遅れがみられたが、その後の天候回復で現在順調。 ・ 出荷量は、作付面積の増加から、前年、平年をかなり上回る見込み。 ・ 出荷量が前年よりかなり増加する中、低コストを目指す実需者から輸入品へのニーズも底堅く、特に出荷が集中する8月中旬以降の価格は前年を下回って推移する見込み。 	<p>（入荷量）</p> <p>8月は、北海道産、青森産が生育良好で出荷が順調であったため、入荷量は前年を大幅に上回った。9月も、北海道産の出荷が順調であったため、入荷量は前年をやや上回った。10月は、台風等降雨の影響で北海道産の収穫作業が遅れたが徐々に回復し、入荷量はほぼ前年並みとなった。</p> <p>期間全体としては、不作であった前年をかなり上回り、平年をやや上回った。</p> <p>（8月～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：107）</p> <p>（価格）</p> <p>8月から9月までは、9月下旬を除き前年を上回る入荷となったため、高値であった前年を大幅に下回って推移した。10月は、下旬に価格が下落したため、前年をかなり下回る価格となった。</p> <p>期間全体としては、高値であった前年を大幅に下回った。</p> <p>（8月～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：75）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

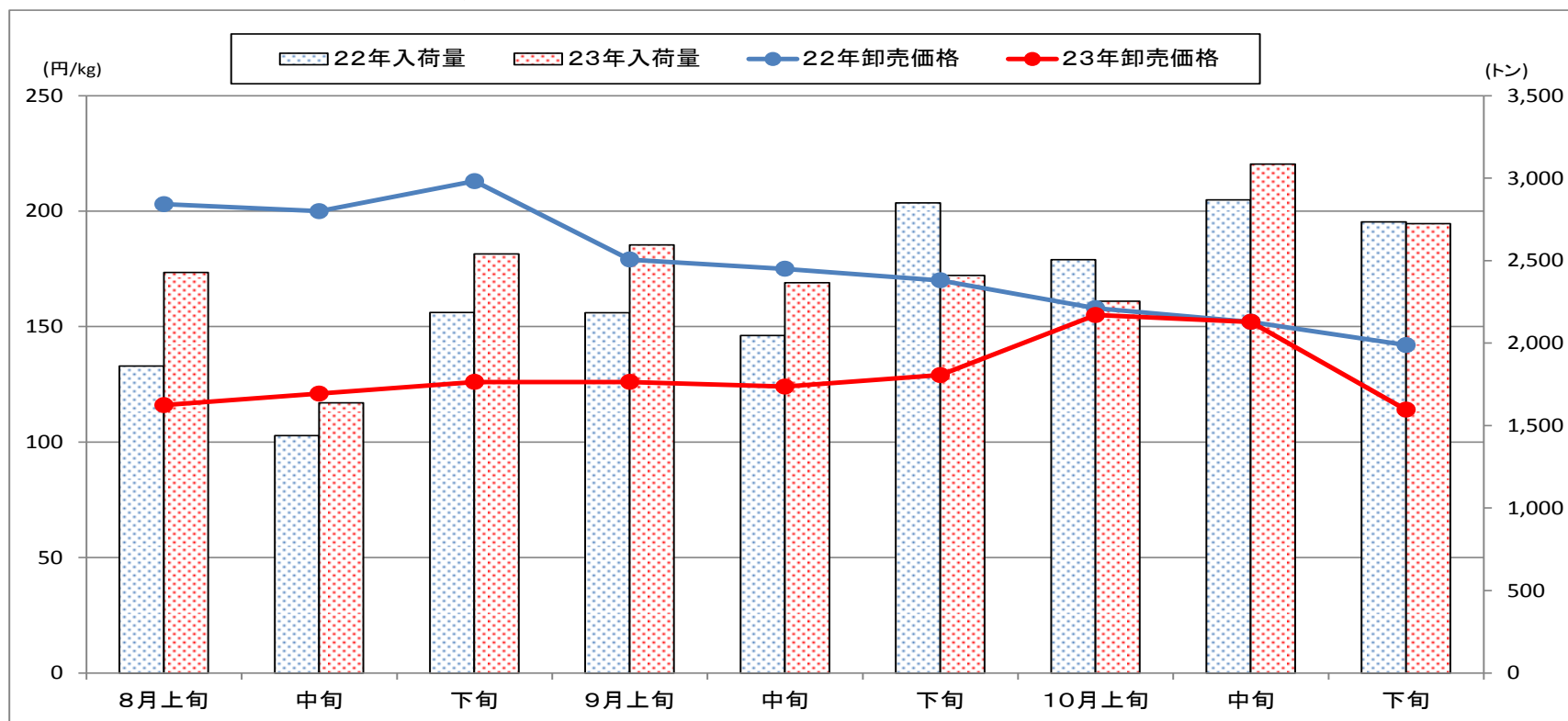
(参考1)

○23年産秋にんじんの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	131	114	116	119	116	85	90	108	100	107
	121			104			99			
価格	57	61	59	70	71	76	98	100	80	75
	59			72			93			

(参考2)

○ 23年産秋にんじんの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



5. 前回の委員会（平成23年7月8日）で示した夏はくさいの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月下旬時点）	備考
夏はくさい （7～10月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、主産地の長野、北海道、群馬ともに前年並みの見込み。 ・ 生育状況は、長野、北海道は生育順調。群馬は低温・干ばつによりやや遅れていたが、回復基調。 ・ 出荷量は、前年並みで、平年より少な目の見込み。 ・ 夏場は需要が少なく、低価格であっても小売数量は伸びず、加工も落ち込んでいることから、価格は前年を大幅に下回って推移する見込み。 ・ 需要がほとんどない中で計画的な生産を一層進めるべき。 ・ 出荷時期が後ろ倒しとなっていることから、秋冬産地との競合の恐れ。 	<p>（入荷量）</p> <p>7月は、長野産、群馬産の生育が順調であったため、入荷量は入荷が多かった前年並みとなった。8月は、長野産が好天に恵まれて順調な生育であったことから大玉傾向となり、前年よりかなり入荷増となった。9月は、長野産が長雨や高温の影響により前年よりかなり入荷減となった。10月は、後続産地の茨城産の生育は順調であったものの、引き続き長野産が入荷減となったため、入荷量は前年をかなり下回った。</p> <p>期間全体としては、前年をやや下回り、平年並みであった。 （7月～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：97）</p> <p>（価格）</p> <p>7月は、入荷は前年並みであったが、価格は前年をわずかに下回った。8月は、前年よりかなり入荷増となったことから価格も前年を大幅に下回った。9月中旬以降は、長野産の不作を受けて価格は前年を大幅に上回って推移したが、10月下旬は、長野産の出荷回復と茨城産の出荷が順調であったため、価格は前年より大幅に下落した。</p> <p>期間全体としては、前年並みであった。 （7月～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：100）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

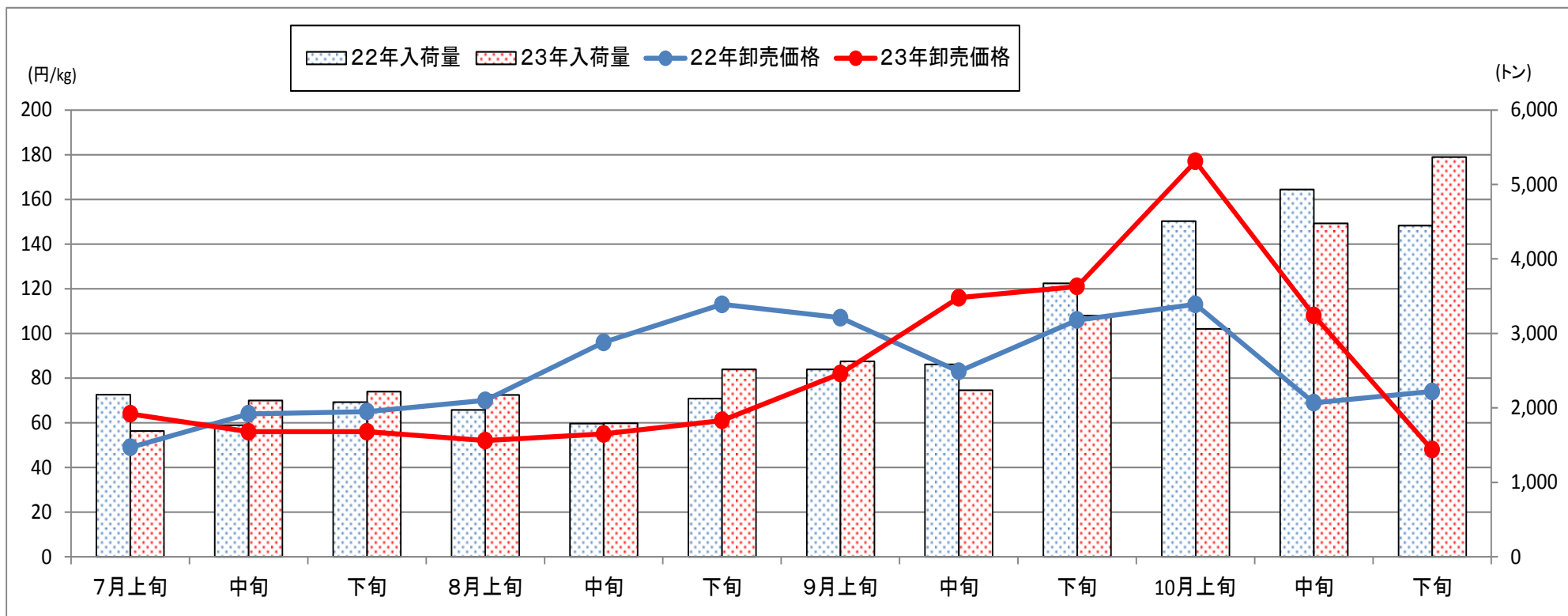
(参考1)

○23年産夏はくさいの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	78	119	107	110	100	118	104	87	88	68	91	121	97
	100			110			92			93			
価格	131	88	86	74	57	54	77	140	114	157	157	65	100
	98			60			108			116			

(参考2)

○23年産夏はくさいの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



6. 前回の委員会（平成23年7月8日）で示した夏秋レタスの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月下旬時点）	備考
夏秋レタス （6～10月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、主産地の長野、群馬、茨城ともに前年並みの見込み。 ・ 生育状況は、一部で病害の発生もあるが、概ね順調。 ・ 出荷量は、前年をやや上回ると見込まれ、7月までは安定した出荷となるが、8月以降は今後の気温・降雨の影響を注意する必要。 ・ 出荷量が前年を上回る一方、夏場は元々サラダ需要があることに加え、今年は節電による非加熱メニューの材料として需要は伸びる可能性もあるが、需要量の多い業務用ではキャベツに移行する動きがみられることから、価格は下落基調となる見込み。 	<p>（入荷量）</p> <p>6月は、長野産、群馬産が比較的生育が順調であったが、入荷量は潤沢であった前年をやや下回った。7月は、長野産が潤沢に出荷されたことから、入荷量は前年をかなり上回った。8月は、群馬産がゲリラ豪雨の多発の影響で入荷減となったが、長野産が引き続き生育が順調で大玉傾向であったため、入荷量は前年をやや上回った。9月は、8月の豪雨や台風の影響で病害が発生した長野産や群馬産が入荷減となり、前年をかなり下回る入荷量となった。10月は、後続産地の茨城産が台風の影響で生育が遅れたが、長野産の出荷が回復したことにより、入荷量は前年をかなり上回った。</p> <p>期間全体としては、前年をわずかに上回った。 （6月～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：102）</p> <p>（価格）</p> <p>6月中・下旬は、前年の入荷量をかなり下回ったことから、価格は前年を大幅に上回った。7月中旬以降8月中旬までは、長野産等の入荷量が前年をかなり上回ったことから、価格は前年を大幅に下回って推移した。8月下旬以降9月までは、長野産、群馬産等が前年入荷量をかなり下回ったことから、価格は前年を大幅に上回って推移した。10月は、前年の入荷量を上回り、価格は前年を大幅に下回って推移した。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり下回った。 （6月～10月中旬の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：94）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

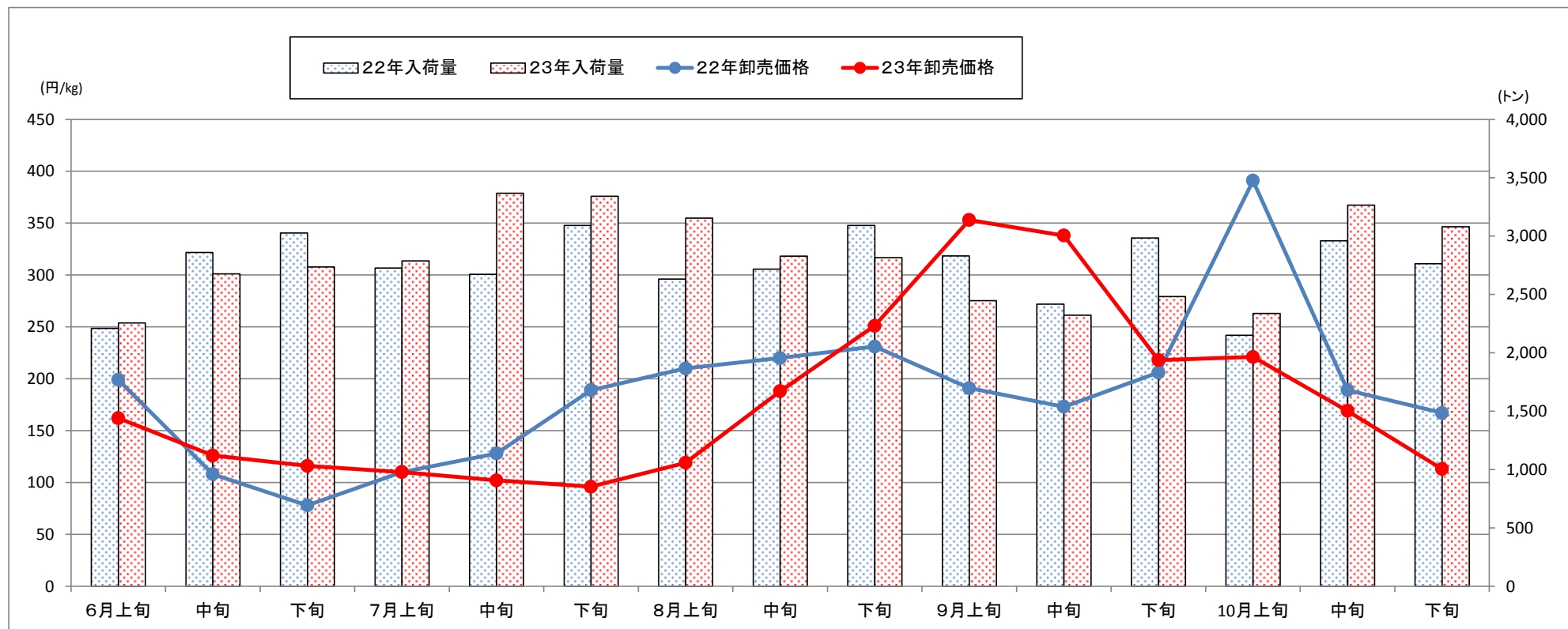
(参考1)

○23年産夏秋レタスの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	6月			7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	102	94	90	102	126	108	120	104	91	86	96	83	109	110	111	102
	95			112			104			88			110			
価格	81	117	149	100	80	51	57	85	109	185	195	106	57	89	68	94
	110			71			83			158			69			

(参考2)

○23年産夏秋レタスの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



7. 前回の委員会（平成23年7月8日）で示した夏秋きゅうりの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月下旬時点）	備考
夏秋きゅうり （7～11月）	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、主産地の福島、岩手、北海道がやや減少するが、群馬、埼玉は前年並みであり、全体としては前年並みの見込み。 ・生育状況は、福島は低温、震災等の影響でやや遅れているが、現状の生育は順調。北海道は天候不順の影響でやや遅れている。群馬もやや遅れているが回復見込み。 ・出荷量は、現時点では前年をやや上回り、ほぼ平年並みの見込み。 ・出荷量は前年を上回るが、原発事故に伴う節電ムードから、非加熱食材として、サラダ需要の増加が期待されることや流通業者の産地支援の動きもあることから、価格は前年並みを維持する見込み。 	<p>（入荷量）</p> <p>7月は、福島産、岩手産が生育遅れのため、入荷量は前年をやや下回った。8月は、福島産、岩手産の生育が回復し、出荷が順調となったことから、前年よりやや入荷増となった。9月は、福島産の出荷が順調であったが、埼玉産が台風等の影響で生育が遅れ気味となったため、入荷量は少なかった前年をわずかに上回った。10月中旬以降、埼玉産、群馬産の生育が順調となり、入荷量は前年をかなり上回った。</p> <p>期間全体としては、前年をわずかに上回り、ほぼ平年並みであった。 （7月～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：102）</p> <p>（価格）</p> <p>入荷が急増した8月中旬及び9月中旬を除き、価格は前年を上回って推移し、9月下旬は高騰し、その後も前年を上回って推移したが、10月下旬は高値であった前年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり上回った。 （7月～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：106）</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

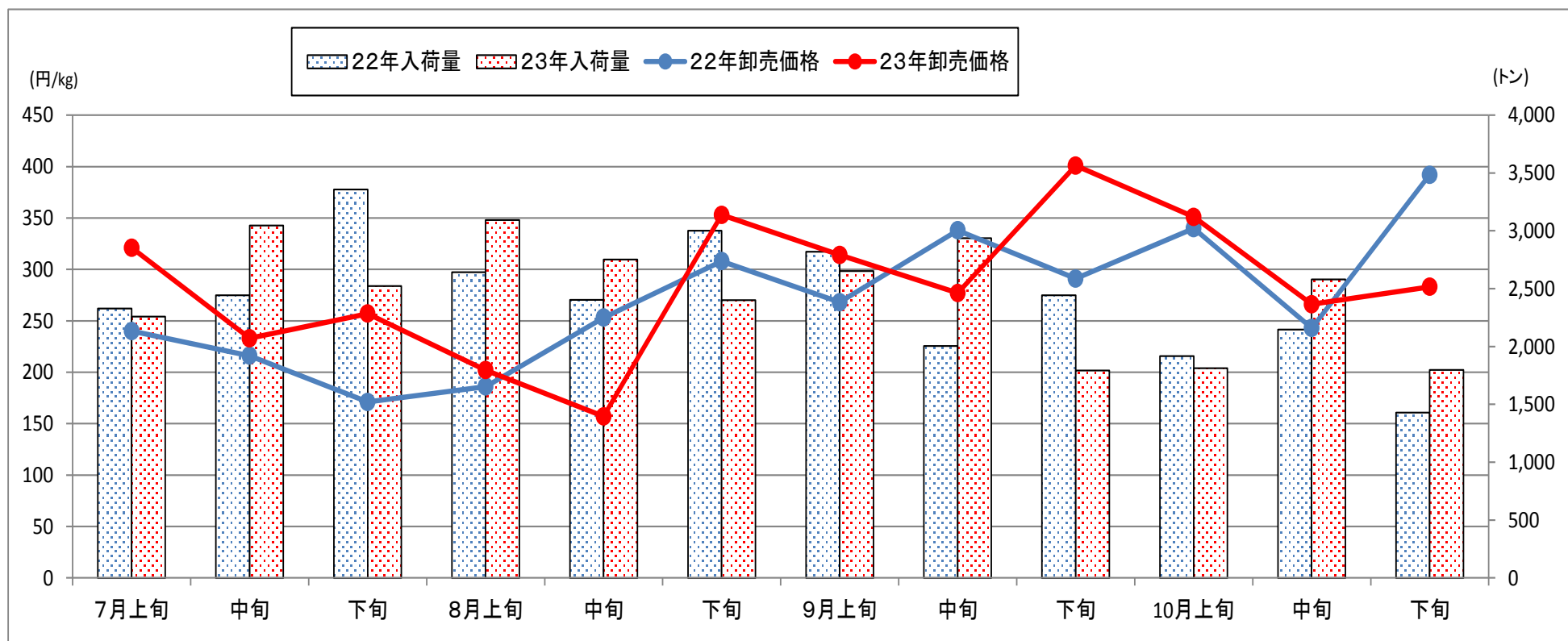
(参考1)

○23年産夏秋きゅうりの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	97	125	75	117	115	80	94	146	73	95	120	126	102
	96			103			102			113			
価格	134	108	150	109	62	115	117	82	138	103	109	72	106
	130			92			109			94			

(参考2)

○23年産夏秋きゅうりの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



8. 前回の委員会（平成23年7月8日）で示した夏秋トマトの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（10月下旬時点）	備考
夏秋トマト （7～11月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、福島が93%、茨城が92%と前年を下回るが、北海道、岐阜が前年並みとなり、全体としては前年並みとなる見込み。 ・ 生育状況は、低温等で生育が遅れたが、熊本を除き、おおむね回復。 ・ 出荷量は、不作であった前年、平年を上回る見込み。 ・ 原発事故に伴う節電ムードから、非加熱食材として、サラダ需要の増加も期待されるが、出荷量全体が前年を上回ることから、価格は全般的に前年を下回り、特に8月中旬以降は更なる低下の恐れ。 	<p>（入荷量）</p> <p>7月は、遅れていた青森産の生育が回復し、栃木産も生育が順調であったものの、茨城産、福島産は天候不順により入荷減となったこと等から、前年よりやや入荷減となった。8月は、福島産が低温の影響で入荷減となったが、青森産の生育が順調であったこと等から、前年をやや上回った。9月は、青森産、千葉産の生育が順調であったこと等から前年より大幅な入荷増となった。10月は、天候の回復により千葉産、青森産等が中旬以降前年を上回る入荷増となったこと等から、前年をかなり上回った。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり上回り、平年をやや下回った。 （7月～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：108）</p> <p>（価格）</p> <p>7月上旬から8月上旬は、前年を下回る入荷量となり、前年を大幅に上回って推移したが、8月中旬以降は、8月下旬に一旦入荷が減少したものの、前年を上回る入荷量となったことから前年を下回って推移し、9月は前年を大幅に下回った。10月は、上旬に大幅な入荷減となったことから前年を上回る高値となり、その後も前年を上回って推移したが、下旬は大幅な入荷増により価格は大幅に下落した。</p> <p>期間全体としては、前年をやや下回った。 （7月～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：97）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1)

○23年産夏秋トマトの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	86	134	80	102	124	86	138	141	102	77	108	142	108
	97			104			128			109			
価格	135	119	113	140	96	95	77	67	63	115	120	75	97
	121			106			69			98			

(参考2)

○23年産夏秋トマトの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）

